急ぎ大きに怪のひさしい急ぎ上す山長谷重の西城に西街
り攻取るべきの旨宣ひけり

従仙臺政宗公が勢之事

畑西高城に迫る国中の者共去往左往に動揺する義を
聞きつけてかをつけ奥仙臺の政宗公急ぎかけをつづき
の者場に仮屋を仕立て待受られけるに政宗公
強き勢ひ剣を持ち伊達を侍る遠藤左衛門をれ副
へ馬上百五十騎歩行の者六千三百人山形へさし越られ
乃義光あつて対面あつて宣ひけるは政宗の加勢を頼み合
戦を遂ぐべきたりとも国中の者共力を付くべき者
なりければ再度の方位を定めもつて先西政宗相馬殿合
戦の砌も味方なりかの者共を引連れ三日一門の足軽を
つづけ先上国中のはうも無くてそなりけるに
諸人て嘉りは従ひ申されて数義を切る者
かりけり山城勢三丸の北側飯塚いつ迄一つ上ると
老武者ハ成澤道忠伊良子宗内左衛門
五人佐竹の成敗寺の近辺迄下知せられ後下